

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査における知立市の児童・生徒の結果について

知立市教育委員会学校教育課

## 1 調査実施日

令和4年4月19日(火)

## 2 調査児童生徒数

市内小学校：7校 6年生：666名

市内中学校：3校 3年生：631名

## 3 教科に関する調査の結果から（全国の平均正答率と比較して）

「たいへんよくできている」「よくできている」「おおむねできている」「努力を要する」の4段階で示し、それぞれの教科で優れている内容と課題のある内容の一部を紹介します。

《小学校6年生》

国語：「努力を要する」 算数：「おおむねできている」 理科：「努力を要する」

	優れている内容	課題のある内容
国語	・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。	・表現の効果を考える。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
算数	・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。	・百分率で表された割合を分数で表す。 ・加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する。
理科	・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。	・メスシリンダーという器具を理解している。 ・メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。 ・観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ。

### 【課題改善のポイント】

#### 国語

- ・読むときに表現の効果を考えると、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにすることである。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことができるように指導する。

#### 算数

- ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導する。

#### 理科

- ・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分が他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。

### ◆ 小学校質問紙調査の結果から(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などについて)

#### 良い面

- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が全国と比較して高い。
- ・「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合が全国と比較して高い。
- ・「自分にはよいところがあると思う／どちらかといえば思う」と答えた児童の割合がかなり高いことから、自己肯定感をもっている児童が多いことがうかがえる。

#### 課題となる面

- ・普段（月～金曜）、1日当たり2時間以上ゲームをする児童の割合が高く、学校の授業以外に1時間以上（学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む）勉強している児童の割合が低い。

《中学校3年生》

国語：「おおむねできている」 数学：「よくできている」 理科：「よくできている」

	優れている内容	課題のある内容
国語	・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。	・文脈に即して漢字を正しく書く。 ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。
数学	・自然数を素数の積で表すことができる。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。	・簡単な連立二元一次方程式を解く。
理科	・日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できる。 ・アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができる。	・水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できる。

【課題改善のポイント】

**国語**

- ・行書の基礎的な書き方を身に付けるために、行書の特徴を伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、実際に書くことができるように指導する。

**数学**

- ・基礎基本の習得を重視した指導を行う。その上で、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できるように指導する。

**理科**

- ・状態変化など「粒子」に関する知識及び技能と身近な現象を関連づけて探究する学習場面を繰り返し設定することで、日常生活や社会の場面で理科の知識及び技能を活用して、現象を説明する力を育成する。

◆ 中学校質問紙調査の結果から(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などについて)

良い面

- ・1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用していた生徒の割合が、全国と比較してかなり高い。
- ・「読書が好き」と答えた生徒の割合が全国と比較して高い。
- ・「自分にはよいところがあると思う／どちらかといえば思う」と答えた生徒の割合が高いことから、自己肯定感をもっている生徒が多いことがうかがえる。

課題となる面

- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦すると答えた生徒の割合が全国と比較して低い。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた生徒の割合が全国と比較して低い。
- ・普段(月～金曜)、1日当たり2時間以上ゲームをする生徒の割合が高く、その中でも4時間以上ゲームをする生徒の割合が最も高い。

4 調査結果をうけて

本調査の分析結果も踏まえ、各校の教務主任で組織した教育課程研究推進委員会を中心に、児童生徒の学力向上に向けて授業の改善点などを検討し、各校で実施していきます(共通理解を図っていきます)。

この調査で測定した学力は特定の一部です。ご家庭では、お子様の得意なことや不得意なことを把握していただき、学習に意欲をもてるような励ましをお願いいたします。